

徳島県阿南市立福井中学校 3年

形部 愛

「国際社会全体の人権問題」

九月十九日、ニューヨークで開かれた国連総会。アメリカの大統領トランプ氏の発言に、日本人々は注目した。北朝鮮拉致問題。北朝鮮が、当時十三歳の女の子を拉致した事実を強く非難した。北朝鮮の大使が途中退席する一方で、「国際社会で大きな危機のうねりが起こる中、トランプ氏の発言には大きな意味がある。」と、日本では歓迎の声が上がった。今でこそ、重大な人権問題として認知されているが、始まりは四十年前のことなのだ。

一九七七年以降、何人もの人たちが忽然と姿を消した。誰の行方もわからないまま二十年という月日が過ぎた一九九七年、北朝鮮で姿を見かけたという報告を基に、北朝鮮に対して調査を求めた。しかし、北朝鮮は拉致を認めず公式な話し合いさえもたれなかった。二〇〇二年の日朝首脳会談で、北朝鮮は拉致を認め謝罪したが、帰国できたのは五名、残り的人たちは死亡または未入境。被害者家族の期待は裏切られた。それから現在まで、多くの家族が、悲しみの中で、愛しい人たちの帰りを待っている。

その中の一人が横田めぐみさん。当時十三歳。めぐみさんは、普通の中学生の日常をいきなり壊され、一人北朝鮮に連れ去られた。めぐみさんの恐怖・絶望・悲しみはいかばかりであったか。

ところで、皆さんは「ブルーリボン」を知っているだろうか。ブルーの色は「日本海の青」や「青い空」を表している。これは、拉致被害者の救出を求める運動の中で発案された。「生存と救出を信じている」という家族の意思表示なのだ。核・ミサイル問題によって関心が薄れてきている拉致問題。このブルーリボンは、この社会の中でいつまでも苦しんでいる人がいる、このことを決して忘れない、ということを私たちに訴えている。

このブルーリボンに続き、拉致問題解決の活動は各地で行われている。啓発活動やラジオ放送など、政府だけでなく民間団体も活動している。中学生の私にとって、こういった活動に参加することは容易ではない。しかし、小さいながらも解決への大切な一歩を踏み出すことはできる。それは、拉致問題に対して関心を持つことだ。小さすぎだと思える人もいよう。だが、関心を持つことで日常が変わってくると思う。初めに紹介したトランプ氏の発言に対しても、「ああ、そうなんだ。」と思うのではなく、この発言に驚き、友達に話すようになる。私も同じように行動したので、疑問は持たないでほしい。少しでも多くの方が、拉致問題に関心を持ち、次の人に伝えていくべきだと思う。この作文を読んで、少しでも多くの人に関心をもってもらいたい。